

例2 次の計算をしてみよう!! 【絶対値の等しい異符号の数の加法】

(1) -5 と $+5$ の和

(2) $+\frac{1}{2}$ と $-\frac{1}{2}$ の和

東に進むことを「+」、西に進むことを「-」と表しているとする。

西に5進んで、東に5進む

東に $\frac{1}{2}$ 進んで、西に $\frac{1}{2}$ 進む

→元の位置にもどる。

→元の位置に戻る

$(-5) + (+5) = 0$

$(+\frac{1}{2}) + (-\frac{1}{2}) = 0$

●絶対値の等しい異符号の数の加法●

絶対値の等しい異符号の2つの数の和は0である。

例3 次の計算をしてみよう!! 【異符号の数の加法】

(1) $+9$ と -4 の和

(2) -10 と $+4$ の和

①絶対値の大きい方の数から小さい方の数を引く

②絶対値の大きい方の符号をつける。

① $9 - 4 = 5$

① $10 - 4 = 6$

② $+5$

② -6

$(+9) + (-4) = (+5)$

$(-10) + (+4) = -6$

(1) $(+4) + (-3)$

(2) $(+7) + (-9)$

① $4 - 3 = 1$

① $9 - 7 = 2$

② $+1$

② -2

(3) $(-6) + (+6)$

(4) $(-12) + (+18)$

絶対値が同じなので
0

① $18 - 12 = 6$
② $+6$

●加法の計算のまとめ●

同符号の和・・・①絶対値の和を求める

②絶対値の和に共通の符号をつける。

異符号の和・・・①絶対値が大きい数から絶対値の小さい数を引く。

②絶対値が大きい方の符号をつける。

絶対値が同じ異符号の和・・・0